健康福祉・医療委員会行政視察概要

1　視察月日　　令和４年８月２日（火）～８月４日（木）

2　視察先及び視察事項

（１）富山県

ア　元気とやま！健康寿命日本一推進プロジェクトについて

イ　ｅスポーツを活用した高齢者の社会参加促進と健康寿命延伸について

（２）総曲輪レガートスクエア協議会（富山県富山市）

官民連携による医療・福祉・健康拠点の整備・運営について

（３）社会福祉法人佛子園（石川県白山市）

多様な機能の融合による福祉拠点の整備・運営について

（４）石川県

石川県における歯と口腔の健康づくり推進の取組について

3　視察委員

委員長	斉藤　伸一
副委員長	山下　正人
同	大山　しょうじ
委員	佐藤　茂
同	佐藤　祐文
同	渡邊　忠則
同	梶尾　明
同	藤崎　浩太郎
同	仁田　昌寿
同	二井　くみよ

視察概要

１　視察先

富山県

２　視察月日

８月２日（火）

３　対応者

厚生部健康対策室健康課課長補佐　（説明）
厚生部健康対策室健康課主事　（同席）
厚生部高齢福祉課地域包括ケア推進班班長　（説明）
厚生部高齢福祉課地域包括ケア推進班課長補佐　（同席）

４　視察内容

（１）元気とやま！健康寿命日本一推進プロジェクトについて

ア　富山県の健康寿命日本一を目指す背景

富山県の健康寿命は延びているものの、健康寿命と平均寿命との間に男性で約９年、女性で約12年もの差がある。また、がんや心疾患などが原因で亡くなる人の割合は約半数にも上る。生活習慣病やメタボリックシンドロームは生活の質を低下させ、医療費の増大を招き、働く世代の負担増にも繋がるため、社会全体の問題として健康づくりに取り組む必要がある。

そこで、富山県では、健康寿命日本一を目指した望ましい生活習慣・健康づくりを、県政の重要な目標の一つとしている。

イ　県の取組状況

（ア）健康づくりの取組

・富山健康づくり県民会議
・とやま健康企業宣言の推進
・とやま健康経営企業大賞
・働き盛りの健康づくり支援事業
・ウォークビズとやま県民運動推進事業
・つながる健康プロジェクト
①働き盛り世代向け「ウォーキングファンドキャンペーン」
②学生向け「つながる健康キャンペーン」
③同世代に広げる「健康づくり若者会議」

（イ）食生活の改善に向けた取組

・食の健康づくり推進事業・とやま「美味しい減塩」プロジェクト

・野菜をもう一皿！食べようキャンペーン

（ウ）高齢者の食支援の取組

・かまぼこを通じたたんぱく質摂取促進キャンペーン

・配食事業者の実態調査と技術的支援

・フレイル予防に向けた食生活改善に関する講習会の開催

・高齢者の食支援を担う人材の育成

（エ）睡眠満足度向上の取組

・ぐっすりとやまプロジェクト

①睡眠の重要性を啓発する「シンポジウム」

②チーム対抗！「チャレンジキャンペーン」

③企業・団体向け出前講座

（２）ｅスポーツを活用した高齢者の社会参加促進と健康寿命延伸について

ア　富山県の高齢化の状況

富山県の人口は1998年にピークを迎えて以降､減少が続いており、今後も人口減少は続くが、高齢者人口は増加し、高齢化率が上昇していくと見込まれている。また医療・介護ニーズの高い75歳以上の人口は、2030年頃にピークを迎える見込みである。

イ　施策の背景

高齢者の方も参加可能なｅスポーツ体験会の実施により、通いの場等にこれまで参加されなかった高齢者の方々の参加を促進するとともに、協力してくれている県立大学の学生などとの世代間交流など、社会参加による介護予防の促進を図っている。併せてｅスポーツによる介護予防効果の測定・分析評価や介護予防効果のある高齢者向けゲームの開発を行っている。

ウ　取組の内容

（ア）通いの場や自宅で高齢者が参加しやすいｅスポーツの実施

・県立大学からの委託を受けた富山県立大学が株式会社ＺＯＲＧＥ（ｅスポーツイベント等の運営会社）と協力して運営。

・参加者の体調管理と介護予防効果の測定のため、保健師（県職員）と理学療法士または作業療法士（県内４か所の地域リハビリテーション地域包括ケアサポートセンター所属）各１名を会

場に派遣。

・県立大学の学生等との関わりにより、多世代交流を推進。

（イ）使用ゲームソフト

・太鼓の達人（リズム）

・グランツーリスモ（カーレース）

・ぷよぷよ（パズル）

・窓ふきの達人（県立大学が開発）

（ウ）実施内容

・個人及びチームによる対戦（得点やタイムで競う）

・手関節・肘関節・肩関節の可動域測定

・体験会への参加前後のアンケート

（エ）オンライン対戦

・通いの場をオンラインで結び、地区同士でオンライン対戦を実施することで、地域コミュニティの強化を図り、高齢者のひきこもりを防止している。

エ　質疑概要

Q　ウォーキングファンドキャンペーンなどのように、一人ではなく皆で取り組み、目標到達を目指していく企画について、どのようにして考案したのか。また、このような取組について、数を重ねるごとに参加者数の増加が見られたか。

A　ウォーキングファンドキャンペーンは、歩数に応じて県が社会貢献活動を行うという取組であり、この特色に対し参加者の関心が高く、ウォーキングアプリのダウンロード数も大幅に増えた。企業単位での参加も多く、参加者のモチベーションも高い傾向にある。

Q　ウォーキングの取組について、チーム制にしているのは、動機を高めることを狙っているのか。

A　以前にチーム制の取組を試したところ、チームで取り組むことでより励まし合えるといった声が多かった。そのため、今回もチーム制にすることによる参加者の増加を見込んでいる。

Q　高齢者に対してどのように情報発信を行っているのか。

A　県と健康づくりの協定を結んでいる富山ヤクルト販売株式会社に、独居の高齢者にチラシ配布をしてもらうなどの取組を行っている。

Q　ｅスポーツについて、執行部の協力を得づらいと思われるが、

富山県ではどのように当事業を展開していったのか。

Ａ　県内のＴａｋａｏｋａ　ｅＰａｒｋの存在などもあり、執行部のｅスポーツに対する抵抗感が低かった。また、県としてもＤＸの推進を図る中で、ｅスポーツをその足掛かりとしたかった。

Ｑ　ｅスポーツの体験会について事前準備がかなり丁寧に行われているが、どういった意図があるのか。

Ａ　コロナ禍ということもあるが、高齢者になじみのないｅスポーツに取り組んでもらう中で、体調を崩す人もいるため、現在はこのような体制をとっている。

Ｑ　イベントの募集はどのように行っているのか。

Ａ　市町村の担当会を通じて既存の通いの場の単位でイベントに参加してもらうなどの方法をとっている。

Ｑ　ｅスポーツのイベントについて自主活動化していく必要があると思うが、これから目指していくのか。

Ａ　県のサポートを減らしつつ、自立してｅスポーツに取り組んでもらえる体制を構築していきたいと考えている。また、県内の老人クラブ連合会が自主的にｅスポーツの機材を購入するなど、機運は醸成されつつある。

Ｑ　この事業に関わる費用についての今後の展望はどうか。

Ａ　今まではかなりの費用を投入しているが、道筋をつけて自主化・実装を促し、予算を減らしていきたいと考えている。

（会議室にて説明聴取及び質疑）

（会議室にて説明聴取及び質疑）

視察概要

１　視察先

総曲輪レガートスクエア協議会（富山県富山市）

２　視察月日

８月３日（水）

３　対応者

会長　（説明）

特定非営利活動法人まちづくりスポット専務理事　（説明）

４　視察内容

官民連携による医療・福祉・健康拠点の整備・運営について

ア　総曲輪レガートスクエアの概要

総曲輪レガートスクエアは富山市中心部の一等地、総曲輪に位置し、乳幼児から高齢者まで地域の人が健康で安心した生活を送ることができるよう健康・子育て・教育に取り組めるヘルシー＆交流シティの拠点として利用できる複合型施設である。

当施設は、少子化に伴う学校再編で空き地となった小学校の跡地を利用して整備された。

富山市まちなか総合ケアセンターでは、子育て支援から在宅医療に渡る総合的な福祉・医療サービスの提供を行っており、また、敷地内の民間企業、団体とのパートナーシップで健康づくりに関するプログラムも行っている。

富山市医師会看護専門学校やリハビリや調理製菓について学ぶ専門学校も敷地内にあり、一時は全校児童１００人に満たなかった小学校跡地も、今では多くの人が行き来する場所となった。

緑豊かな中庭や屋上のギャザリングスペース、学生レストランなどがあり、イタリア語で結びつきを意味するレガートの文字通り、地域や人と人が繋がり合い、まちなかのにぎわいを見せる場となっている。

イ　質疑概要

Ｑ　富山市のコンパクトシティの取組として、中心市街地の社会経済活動の活性化も目標にある中で、総曲輪レガートスクエアのような施設ができると、人の往来やにぎわいの増加、周辺経済の活

性化などの好影響が望めると考えるがどうか。

A　歩行者通行量、路面電車乗車人数、居住人口などの指標がある中で､コロナ禍で数値が増加しておらず評価しづらい現状にある。

Q　総曲輪レガートスクエアの建設についてプロポーザルで公募を行っているが、どういった公募方法だったのか。

A　ユニバーサルデザインの導入、環境負荷の低減、良質な都市景観の形成に考慮することなど、市が提示条件を提示、それを踏まえた事業者からの自由提案を受けている。

Q　富山市まちなか総合ケアセンターで行っている病児保育について、運営しているのは市の職員か。

A　市の職員であり、市が直営している。

Q　どのような少子化政策を進めているか。

A　子供医療費助成は小・中学生までは通院・入院無料である。病児保育についても制度上認められないものを国に認めてもらったなど、とにかく子育て世代を呼び込む取組に力を入れている。また、子育て環境を充実するだけではなく、まちの魅力創出の面も考慮している。

Q　産後ケア、病児保育の予約状況はどうか。

A　富山市では三世代家族なども多く、家族の支援を得られる方も多いため、すぐに予約が埋まってしまうという状況には至っていない。

（会議室にて説明聴取及び質疑）

（施設敷地内を見学）

視察概要

１　視察先

社会福祉法人佛子園（石川県白山市）

２　視察月日

８月３日（水）

３　対応者

法人理事・代表　（説明）

西圓寺施設長　（説明）

４　視察内容

多様な機能の融合による福祉拠点の整備・運営について

ア　B’s行善寺・佛子園　施設概要

B’s行善寺・佛子園は石川県白山市に建設された地域コミュニティ施設である。徒歩圏内の周辺地域を対象にし、生涯活躍のまちを目指した施設であり、障害がある人も健常な地域住民も誰もが等しく利用できる、分け隔てのない地域の駆け込み寺としての役割を果たしている。

施設の構成は多岐にわたっている。福祉・医療施設としての高齢者デイサービス､障害者生活介護や保育園､内科クリニックに加え、交流施設として天然温泉、食事処、ウェルネス、温水プール、フラワーショップなどが併設されており、様々な人々がごちゃまぜに集まり、交流できる場所となっている。また、施設全体が障害者の就労支援の場としての機能も有している。

従来の福祉施設にはそれぞれの福祉分野が互いの領域を守ろうとする縦割り体質の問題があった。そのため、高齢者や障害者、子供たちの交流が促進されるようなスペースをつくることさえ困難であった。しかし、当施設では様々な人々が交わることが豊かさや賑わいを生むと考えており、従来の福祉施設の利用者はあくまで支えられるだけであったのに対し、当施設においては高齢者が子供たちを支える役割を担うなど、利用者が活躍し生きがいを感じられる機会をつくる狙いもある。

また、地方都市においては少子高齢化が急速に進み、旧来地域社会が備えていたつながりやにぎわいが失われつつあるが、当施設で

は周辺にあるグループホームやサービス付き高齢者向け住宅と連携し、周辺地域一体となったタウン型の生涯活躍のまちを目指している。地域の誰もが日常的に集まることのできる場所をつくることによって地域コミュニティの再構築を目指している。

イ　西圓寺　施設概要

西圓寺では障害者、高齢者、子供等様々な人が互いに支え合いながら共存することを可能にするソーシャルインクルージョンの実現を根幹としている。また、近隣住民には、単なる利用客としてではなく、当施設を共同で運営してほしいという提案から、温泉の受付、カフェや駄菓子屋の運営と接客、高齢者デイサービス利用者・生活介護利用者への各種支援、温泉の清掃業務、寺で開催している各講座やサロンの準備・後片付け、温泉で販売する商品づくり等、多種多様な職種を設定し、様々な人の雇用機会を創出している。

また、西圓寺では、住民と協同で地域のブランド力を向上させるべく、住民がつくる商品を施設内で販売している。これは、当施設で販売する漬け物や野菜について、売り上げの２割のみ西圓寺に納め、残りは製造者である住民に支払うという仕組みで成り立っている。事業者だけで推し進めるのでなく、住民を巻き込んで行うことで、住民のまちづくりに対する主体性を引き出すことを根底においた運営を行っている。

ウ　質疑概要

Q　空き家の活用について、亡くなった方の不動産に複数の所有権があって簡単に利用できない場合、行善寺ではどのように解決したのか。

A　空き家の所有者について地元の人が把握している場合が多く、そういった方の協力を仰いだ。

Q　障害福祉について、給与水準が低いことが課題としてあるが、どのようにしてその部分の解決を図っているか。

A　各施設での売り上げが上がることで、就労している障害者の方の給与に反映される仕組みになっている。

（Ｂ’ｓ行善寺・佛子園にて説明聴取及び質疑）

（西圓寺にて施設見学）

視察概要

1　視察先

石川県口腔保健医療センター（石川県）

2　視察月日

８月４日（木）

3　対応者

医療対策課長　　（受け入れ挨拶及び説明）

健康推進課長　　（説明）

石川県歯科医師会理事　（施設案内及び説明）

4　視察内容

石川県における歯と口腔の健康づくり推進の取組について

ア　石川県口腔保健医療センターの特徴

・石川県口腔保健医療センターでは、歯科診療や歯科保健サービスを受けることが困難な障害（児）者や高齢者・要介護に対して、歯科医療・歯科検診を提供している。

・障害者歯科に対する専門的な知識と豊富な経験を持ち合わせた複数の歯科医師を配置し、一般の歯科医院では診療困難な障害者に対し、大学歯学部等の障害者歯科専門外来と同等の診療提供を目指している。

・在宅等で療養を行っており、通院が困難な人に対し、歯科治療を実施している。さらに、在宅療養者が口から食べることが難しくなった人や、誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下障害のある人への診断と食支援を実施し、必要に応じ内視鏡による摂食嚥下機能診断を行っている。

・がんを患った人が、放射線治療やがん薬物療法に伴い、口腔内に生じる副作用によって、食生活に支障が出ないよう、口腔健康管理に詳しい専門医による診断・診療を行っている。また、がん終末期の人が穏やかに過ごせるよう口腔健康管理の面からの適切なアドバイスを行っている。

・石川県歯科医師会が運営しており、必要に応じて歯科医師会会員であるかかりつけ歯科医院との連携が可能である。

イ　石川県における障害者（児）等歯科保健・医療の推進

定期的に歯科検診や歯科医療等を受けることが困難な、心身障害者（児）や在宅での寝たきり高齢者、介護施設・社会福祉施設等の通所者・入居者等・要介護者の口腔機能を保持・増進するため、かかりつけ歯科医や県歯科医師会が設置している石川県口腔保健医療センター等による歯科訪問診療や訪問歯科衛生指導等を推進するとともに、研修による人材の育成を図っている。

関連する事業として、障害者等歯科保健指導事業や歯科保健医療活動事業等を行っている。

ウ　歯と口腔の健康づくり推進の取組

石川県歯と口腔の健康づくり推進条例に基づき、平成30年４月に第２次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画を策定した。計画の期間は平成30年度から令和５年度の６年間であり、県の歯科保健に関する現状を分析し、ライフステージごとに目標を設定するものとなっている。

エ　質疑概要

Ｑ　第７次石川県医療計画のような計画を策定していく過程で、石川県の歯科医師会などはどのように連携したのか。

Ａ　医療計画については疾患別､部会別に推進計画を進めているが、当該計画については、歯科部会を開催し、歯科医師会や大学の医師に参加してもらって医療計画を策定している。

Ｑ　本市では歯に対する計画に対する見識が低い時代があったが、現在の計画については、オーラルケア等についてきちんと盛り込まれている。石川県における遍歴はどうか。

Ａ　計画ごとに達成度等を見直しているが、大元の部分は変えてはいない。

Ｑ　県域全体を見たときに、患者の分布はどうなっているのか。訪問歯科診療でカバーできているのか。また、県として目指している方向性はどうか。

Ａ　特に能登地方では人口も歯科医院の数も少なく、訪問診療を行うためのマンパワーも十分ではない。そのため、今後検討が必要だと認識している。

Ｑ　口腔医療センターの患者数の話があったが、潜在患者についてはどのように認識しているのか。

Ａ　在宅で医療を受けている小児について、歯科医療が十分に提供

されていない現状があると認識している。

Q　障害者歯科医療の提供を考える上で、一次医療を活用するべきと考えるがどうか。

A　より多くの患者に医療を提供するため、二次医療から一次医療に戻してケアを行う体制を整えることが必要になると認識している。

（会議室にて説明聴取及び質疑）